

令和8年度 第3回 朝日丘地域会議 会議録

■日 時 令和8年7月9日(木) 午後7時～8時30分

■場 所 朝日丘交流館 2階 21会議室

■出席者 <委 員> 山口 美智雄 高橋 英明 深井 弘司
長尾 敬一郎 野田 英伸 都築 正孝
岡本 勝好 藤田 武士 水野 和之
横山 浩一 中山 憲雄 川上 真史
<欠 席> 日高 俊郎
<交流館> 田辺 由美(館長)
<事務局> 板倉 壮吾(地域交流課副主幹) 田中 和香(地域交流課主事)

- 次 第
- 1 開会・会長あいさつ
 - 2 地域課題解決事業について
 - (1) 防災に関する勉強会
 - (2) 今後取り組む内容の確認
 - 3 閉会

■議 事 (要約)

2 地域課題解決事業について

(1) 委員の防災に関する知識の底上げ、実施事業や目標に関する根拠を明確にするため、防災対策課による防災講座(勉強会)を実施した。前回の会議録に記載をした質問や当日にでた質問に対する回答は以下のとおり(抜粋)

Q1. 食料備蓄を3日分とする根拠は。また、食料備蓄を最優先としていいか。

⇒災害が起きてから、公助(市の支援)を受けられるようになるまでに、一般的に3日程度かかる。最低でも3日程度の備蓄があるとよく、最も望ましいのは1週間程度。まずは家具固定や耐震補強等により、発災時(地震が起きたとき)に自分が生きのびることができることが大切。合わせて、確実に必要となるトイレ等の災害備蓄品や、食料備蓄。他にもガストーブ、ガソリン等、備えるものはある。

Q2. 災害が起きたときの具体的な支援内容、シナリオは。

⇒南海トラフ：豊田市地震被害予測調査 報告書(令和8年3月)

具体的な支援内容は被害状況にもよるため、詳細としてはない。

災害時の最悪の想定は、過去の災害の例のように市が被災し機能しないことであるため、日ごろから地域で防災に取り組む必要がある。

Q3. 朝日丘地域において備蓄率を80%以上という目標は可能だと思うか。

⇒地区の特性によって異なってくるが、全国でいえば、中心となる方が先導し、啓発等も含めた地区防災計画等を作成し、行政と地区との役割分担を明確にしているところもある。

(2) 今後、朝日丘地域会議として取り組む内容は以下のとおり。

- ・目標、指標は今までに決めたとおり。
- ・備蓄については、食料以外にもトイレやガソリン等全体的に備蓄する必要があるため食料だけに絞らず、備蓄全体に関する啓発を並行して進めていく。(ポスター、クイズに関しても同様)
※ 1週間程度がもっとも望ましいが、まずは3日程度以上から、できることからの啓発を進めていくこととする。
- ・家具固定についても、設置等ではなく、固定器具の啓発等から進めていく。

<その他意見>

- ・身近な問題として、朝日丘地区におけるリスクを地域全体として把握をしてもらう必要がある。合わせて、平時からマイタイムライン等を作成することが大切ではないか。
- ・大人だけでなく、小中学校を通じた子どもへの啓発活動も必要である。

(終了)